

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会  
再生普及行動計画ワーキンググループ(第22回) 議事要旨

日時:平成24年4月26日(木)18:00~20:00

場所:釧路地方合同庁舎 4階 共用第三会議室

【出席者(敬称略)】

再生普及行動計画ワーキンググループ構成メンバー

<個人(所属)>

清水信彦(個人)

新庄久志(釧路国際ウェットランドセンター主任技術員、環境ファシリテーター)

<団体(出席者)>

釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会 /こどもエコクラブくしろ(近藤一燈美)

釧路市民活動センターわっと(成ヶ澤茂)

釧路シャケの会(小杉 和寛)

<再生普及小委員会(出席者)>

高橋忠一(個人)

<関係市町村(出席者)>

釧路市(環境保全課 湿地保全主幹/菊地 義勝)

鶴居村(産業課商工観光係/佐藤 大輔)

<関係行政機関(出席者)>

環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所(所長/野口明史)

環境省北海道地方環境事務所 野生生物企画官(大林圭司)

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課(上席治水専門官/市川嘉輝)

国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課(治水専門官/稲垣達弘)

林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター(自然再生指導官/朝倉基博)

<再生普及行動計画ワーキンググループ事務局>

環境省北海道地方環境事務所 国立公園・保全整備課課長補佐(高見沢敏男)

環境省北海道地方環境事務所 釧路湿原自然保護官(竹中康進)

財団法人北海道環境財団(久保田学、清水美希)

【議事概要】

<事務局>第22回再生普及行動計画ワーキンググループ(以下「行動計画WGと表記」)を開催する。冒頭、新年度につき各自自己紹介。(新規には釧路開発建設部の市川上席治水専門官、稲垣治水専門官)(資料確認後、新庄座長による進行)

議事1 2011年度再生普及行動計画WGの取組報告

議事2 「ワンダグリンド・プロジェクト2011」の活動報告

議事3 「ワンダグリンド・プロジェクト2012」の応募状況について

<事務局>

釧路湿原自然再生協議会の普及小委員会では自然再生の普及啓発や市民参加、環境教育の促進を進めている。釧路湿原の自然再生を普及するための行動計画を作り、その後、実行していく実働部隊がWGである。このWGでは、できるだけ皆さんのご意見を聞き、意見交換していきたいと思っている。

(資料1に沿って説明)前回 10 月のWG以降の取り組みを報告する。情報発信の機会としては前々回のWGで話し合った場所を参考にパネル展示を実施した。流域を視点に考えて道の駅摩周温泉でも実施している。航空写真を新しく作成し高解像度で準備もし易くなっている。フィールドワークショップは釧路湿原をもっと知ってもらおう事やWG, ワンダグリンダ同士の横のつながりをつくる目的で実施している。今回は平日の参加で 23 名の参加。なかなか行かれない冬の湿原に行けて好評であった。ワンダグリンダ・プロジェクトの応援団としてポスター掲示やパンフレット等を置いてもらうワンダグリンダ・プロジェクト推進サポーターは 6 件増え 43 箇所協力いただいている。情報発信の拡充では昨年度から自然再生事業を解りやすく紹介するホームページを作成中で今年度は茅沼の旧川復元を手がけており、もうすぐ公開予定である。

(資料2に沿って説明)ワンダグリンダプロジェクトの活動支援として今年度から、ワンダグリンダ・プロジェクト登録証を発行し、意志の公表と取り組み活動をPRした。ワンダグリンダの特典としたカヌーツアーを新庄さんご案内で実施した。ワンダグリンダ・プロジェクト 2011 の報告書は 47 団体・個人 75 取り組みの活動を取りまとめ作成している。(資料 2-1、2-2 参照)ワンダグリンダ・プロジェクト参加者へアンケートを行い、他の団体と連携や参加者同士のつながりを持ちたいとの要望が複数あり、今後参考にしていきたい。

(資料3に沿って説明)ワンダグリンダプロジェクト 2012 には現在 45 団体・個人、69 取組みの応募があり、新規で釧路駐屯地曾友会、西村さんの 2 件の募集があった。(資料 3-1 参照)まだ募集しているので働きかけていただきたい。活動支援として今年度はワンダグリンダ応募者の方にも普及シールを配布しPRに使ってもらいたいと考える。アンケートにもあったワンダグリンダ・プロジェクト参加団体間の交流の場を提供し横のつながりが解るような取り組みをしていきたい。自然再生の参加の促進を考えイベントを実施したいと考えている。

<委員> 登録証の額縁は別か？

<事務局> 別である。

<委員> わっとではラミネートして貼っている。

<委員> ラミネートして縁に白樺の枝を貼ればよい。こうしたものはプラスチックには入れたくない。

<委員> 交流の場として、以前の報告書のお披露目会がよかった。それが交流の場になる。

<座長> 特典カヌーは7月中旬～8月上旬にやりたい。他にも一緒にやってくれる人がいればいい。

#### 議事4 2012 年度再生普及行動計画 WG の活動予定(案)

<事務局>

(資料4に沿って説明)WG事務局だけではなくてWGのメンバーと一緒に取り組んでいきたいとの思いから◎などの印をつけている。WGの開催と行動計画の進行管理、活動支援ではワンダグ

リンダの横のつながりを重点的にやっていきたいと思っている。フィールドワークショップは7月キラコタン岬の宮島岬より、冬場は土砂流入の久著呂川沿いを予定している。情報発信・普及活動の充実では、再生普及行動計画通信ホームページはできた当初からの活動の上乗せのホームページで見つらいためリニューアルを考えている。釧路湿原の情報としてワンダグリンダニュースをメールを持っていない人達もみれるように掲示に力を入れていきたい。パネル展では航空写真も新しくなり扱いやすくなったので貸出しとして色々な取り組みに使ってもらえたらと思う。「自然再生の今」を伝える情報発信の拡充としては、現在行っている「森林再生のブログ」を「自然再生ブログ」に変更して更新頻度の向上をはかりたい。自然再生を伝えることのできる人材の育成を目標に研修等の実施を検討したい。自然再生の参加の機会づくりでは自然再生事業の地元向け見学会を各小委員会と連携しながら実施する予定。市民活動(ワンダグリンダ)による自然再生への取り組みの推進(別紙:釧路湿原には“楽しい”がいっぱい！釧路湿原の自然再生に参加しよう！参照)として、6月から8月を自然再生の市民参加強化月間とした一般参加ができ、参加者の活動が「自然再生に参加する、行動する」ものを集約(10件程度)し、事務局がPRしていく。

<座長> FWSで、アンケートには「参加者の体力も考えて」という意見があったが。

<委員> 体力の弱い人のことは考える必要がある。

<座長> 皆が参加できるものにしていこう。湿原のゴミ拾いはどこでやるのか？

<事務局> 湖畔や道路沿い。

<委員> ボランティアレンジャーでは、温根内の駐車場や、5月は北斗の国道のゴミ拾いもする。

<委員> 8月には子どもたちも一緒に釧路国立公園クリーンデーを開催する。

<委員> ゴミとしては空き缶やPETボトルが多いのか？

<委員> 温根内の駐車場の回りは多い。路肩の下が汚い。お酒の瓶も結構ある。

<座長> 能登の千枚田では、ゴミのパネルが置いてあり、「まいったなー俺は」というようなごみの台詞が書いてある。道路沿いで拾ったゴミのめぼしいものを展示したようだ。

<委員> 参加団体間の交流促進について、ワンダグリンダ・プロジェクトの参加者になぜ(他の団体のイベントに参加する等)機会はあるのに交流が進んでいないのかを聞いてみてはどうか？

<事務局> 登録者は自分以外の参加者を知らない。メールニュースで取り組みイベントを流すので、参加しようと思えば参加できるが、「ワンダグリンダ同士」という感覚は薄いかもしれない。

<事務局> エコフェアでのワンダグリンダとしての発表等がいいかもしれない。

<委員> 明日俳句・短歌を作る会で、シャケのことを知ってもらうために岩保木水門に案内する。去年は交響楽団の演奏者に夕日を見ながらの演奏会も企画したが、トイレの問題であきらめた。5月に釧路新聞の歌壇に湿原のことを歌ったものが出るだろう。

<委員> まずは参加者同士の顔合わせをやる必要があるか。

<委員> 最近はエコフェアに出ているが、報告書の配布だけしかしていない。

<座長> 以前は出版記念のお披露目をやっていた。気軽にできる場をもう一回考えてみては。たしか、差し入れを持ち寄ってやっていた。

<委員> ただ集まるだけでなく、お見合いのようなプログラムを組んではどうか。

<事務局> それぞれの活動の協力が生まれるとよい。

<座長> 顔を合わせる機会を考えていきましょう。

## 議事5 自然再生に参加する、行動するについて（検討）

＜事務局＞

（資料5に沿って説明）第2期の再生普及行動計画WGでは「自然再生に参加する、行動する」を重点的に進めている。昨年度は情報発信の強化を進め、前回のWGでは自然再生事業への市民参加を検討してきた。今回のWGでは「自然再生」とは修復や復元だけではなく参考資料2のとおり幅広い概念であり、行政の事業に限らず、どのような自然再生があり、どのような市民の参加の機会が考えられるかを話していきたい。

＜座長＞ 様々な自然再生の参加について考えてみて、その結果をみんなで共有し、今後の市民参加の取り組み事業に生かしていきたい。

＜事務局＞ 今やっているものでもいいし、今はないけれどもやってみたい、というものでもいい。資料4-1に現在のワンダグリンドの取組があるので、参考してほしい。

＜検討 35分＞ 各グループごとに、模造紙とポストイットで作業。

＜検討発表＞ 作業の結果を共有

①テーブル

＜委員＞ 岩保木から幣舞橋までの釧路川を再生することで、6つの再生メニューが全部できる。釧路駅での稚魚展示は3年目になる。イオン釧路店で500匹飼っている。毎月のイエローレシートの日のレシートの1%がシャケの会に還元される。地元で子どもの環境の勉強のグループを作って孵化場に行ったりしている。冬の間、稚魚の飼育を通して情報交換し、寒さがあるからこそ育つ命を伝える。昨年、国立環境研究所の研究者を案内したが、釧路湿原の2つの障害物があり、岩保木水門とウライである。これによって食物連鎖が完全ではなく、キラコタン岬近くのシャケ沼まで上ってこられない。シャケの自然産卵する川としない川では柳の勢いが違う。栄養分の循環の差であり、釧路の自然再生に貢献する。

＜座長＞ 人の集まる場所でシャケの稚魚を飼育し、なぜそれが必要かを、象徴させていく、という取組である。

②テーブル

＜委員＞ もう少し釧路湿原のことを知ってもらわなければならないが、湿原中を案内できる人が少ない。そうした人を増やすために、例えば佐渡のトキで行われているが、自然再生を学ぶカリキュラムやエコツアーを作って講座卒業生がガイドする。そうした資格を作る。子ども向け教材、副読本を作る。若い人が少ないようだが、大学生にワンダグリンドへの参加を単位認定できるとよい。若い人が参加すればもっといろいろな人が参加する。子どもが参加する植樹も有効である。参加基盤の強化には企業の参加が望まれる。ノロッコ号のガイドに自然再生の話をしてもらう。ワンダグリンド主催者が使う保険会社に参加活動にかかる保険費を割り引いたり手続きを簡単にしてもらったりするなど。自然再生をもう少し楽しんでもらう仕組みを作ればよい。

＜座長＞ カヌー団体にも協力してもらうこと、教材の作成、大学のカリキュラム化、子どもの参加等学校教育へのアプローチ、企業への働きかけ（JRや保険会社）、ガイドさんへのアプローチなどを広げては、という提案。

<委員> 新庄さんのカヌーツアーも参加できる人数に限りがある。カヌー団体に協力してもらえるとよい。

### ③テーブル

<委員> ゴミ拾いが湿原に入るきっかけとして手っ取り早い。その中で、ウチダザリガニをバスターして食べる、ヒシをとって食べる、山菜採り、等をプラスアルファで加え、子どもたちに湿原に入ってもらう。そうした機会をたくさん作れるとよい。子ども魚博士、釧路湿原湿原こどもレンジャー、釧路湿原川レンジャー等、こどもたちにゴミ拾いから始めて体験してもらう。こどもからこどもに伝えてもらうために「博士」として認定する等、子ども達中心に参加する機会を作っていく。そこから苗作りや種作りにつなげていく。お金が必要ならば、寄付等を活用する。家の周りの外来種駆除も自然再生になる。キツネにエサをあげないことも自然再生になる。

<委員> ゴミ拾いをとおして湿原とのいろいろな接点をつくる。という提案。

<委員> 今朝の北海道新聞で外来生物駆除に北海道が予算をつけたと言うが、その定義がはっきりしない。

<委員> 定義は決まっているので従うのがよい。

<委員> ニジマスはどうか。

<委員> 駆除対象ではない。人間が管理している。

<委員> オオハンゴンソウは採るが、ニジマスは市民権を得ているのか。

<事務局> 外来種もいろいろあり、その中から駆除の対象を決めている。

<座長> 外来生物の法律上の定義、学問上の定義、一般の認識は異なる。外来生物の駆除の時どの定義を使うのかを明確にすればいい。それ以外のことは違う議論になる。

<委員> 情報が十分に知れ渡っていないかもしれない。

<事務局> 今釧路湿原ではこの生物が影響していると、もっと明確にしていく。

<委員> 野生動物に配慮した運転とは？

<事務局> ロードキルを避けるためにゆっくり走るということ。生き物も釧路湿原の構成の一員という考えから。

<委員> レンタカー会社で貸すときにパンフレットなどで注意喚起できるとよい。

<委員> ごみ拾いして集めたゴミをどうするとよいのか。

<委員> 釧路市や鶴居村等、ルールにあわせて分別する。PET ボトルも汚れていると再生できないので、「燃えるごみ」にしている。

<事務局> ボランティアがあつめたゴミは無料で処理していただいている。土日に拾ったものを月曜まで置いておくとカラスに荒らされるので、処理場に持ち込むまでボランティアでやろうとしている。

<委員> 処理が大変そうなので、そこを簡素にできれば参加しやすくなるのでは。

<座長> 昔は個人でゴミを集めることもあった、どこに持って行けばいいかの仕組みまで明確にするとより多くの人に参加してもらえる。

<委員> 釧路市は、町内会で「ボランティア袋」がある。町内会の名前を書いておけば処理してくれる。それに入れればよい。

<座長> 釧路湿原のゴミを持ち込んでいいかは調べた方がいい。そうした仕組みを明らかにしようということである。

<座長> 事務局の想定を超えるユニークな提案をありがとうございました。

#### その他

<事務局> WGの開催時間、場所について、検討させていただきたい。このWGの検討内容は再生普及小委員会で報告させていただく。

<事務局>これで第22回行動計画WGを終了させていただく。